

平成 22 年度研究交流目標

平成 22 年度は本研究事業の 3 年目（最終年度）になる。今年度の研究目標は以下の通りである。

共同研究

共同研究として取り組んでいる「発達障害児の親支援のための調査」（3 カ国国際比較研究）本調査の交流および比較研究をすすめると同時に報告書の作成をすすめる。本調査はアンケート調査に加えてケーススタディ調査をすすめ親のニーズの実態把握につとめる。また、研究成果の公表についてその方法や発表学会等について協議する。

共同研究をすすめて、若手研究者の人材育成、研究ネットワークの構築をすすめていく。また、若手研究者の研究成果発表の機会を設け東アジア地域での研究交流を活発化させる。

セミナー

平成 22 年度は、第 5 回「東アジアの発達障害児のための治療教育プログラム開発に関するセミナー」を 5 月 31 日から 4 日の予定で復旦大学（中国・上海市）で実施する。また、第 6 回を 11 月 3 日～6 日の予定で、南京師範大学（中国・南京市）で実施する。

セミナーでは、上記の国際共同研究「発達障害児の親支援のための調査」（3 カ国の比較研究）に加えて「発達障害児の早期発見・早期対応プログラム開発」および「発達障害児の個別指導計画（IEP）の作成のための理論と実際」についての実情の研究の交流をすすめる。

セミナーのテーマは、「東アジアの発達障害児の親のニーズと治療教育プログラム開発」を予定している。

その他の活動

2010 年 5 月 20 日～22 日に開催される IMFAR・2010（第 9 回国際自閉症会議・アメリカ・フィラデルフィア）に参加し動向調査と研究交流をはかり、東アジア地域の発達障害児研究および支援の実情についての相対的位置を明らかにする。

上記セミナーに加え国際共同研究およびセミナーの打ち合わせのために中国、ベトナム、日本を相互に訪問し、研究交流をすすめる。また共同して研究発表することをおして東アジア地域の研究ネットワーク形成をすすめる。